ASUNARO Awardと日本での小児歯科交流

日本小児歯科学会（JSPD）シンポジウムおよびあすなろ小児歯科医院訪問報告

Jeonghyun Yoon
レジデント／ソウル大学歯科病院 小児歯科
訪日期間：2026年5月20日〜26日
訪問地：沖縄、東京、富山（日本）

2026年ASUNARO Awardの受賞者として、日本小児歯科学会（JSPD）の学術大会に参加し、日本および台湾の先生方と経験を共有する機会を得ました。沖縄での発表を終えた後、東京、富山を訪れ、あすなろ小児歯科医院を見学し、子どもたちのための診療環境づくりや口腔保健教育への取り組みについて学びました。このプログラムを通じて、レジデントとして自身の研究を発表する機会を得るとともに、日頃の臨床で感じている課題について、異なる視点から考えることができました。

今回の訪問を通して、私の心に最も強く残ったのは、子どもたちが歯科受診をどのように記憶しているかと言うことでした。治療を終えることだけでは、子どもたちが歯科受診をどのように経験したかを十分に表すことはできません。子どもたちが感じる不安、歯科医療スタッフとの関係、そして次回の予約に対する期待も重要です。ASUNAROの施設や活動を見学したことで、治療中だけでなく、治療の前後も含めた子どもたちの体験について考えるきっかけとなりました。

本報告では、今回の訪問における主な活動を振り返るとともに、シンポジウムと医院見学を通して感じたことをまとめます。特に、子どもたちを口腔衛生教育に参加させること、子どもたちが歯科診療に対して前向きな記憶を持てるように手助けすること、そして韓国、日本、台湾の小児歯科医師の間で専門的な交流を継続していくことに焦点を当てています。

5月20日・21日　沖縄での学会参加と発表

5月20日に沖縄に到着した後、ラグナガーデンホテルに滞在し、翌日の発表に向けて準備を行いました。所属する診療科や病院という慣れた環境を離れ、海外で小児歯科の先生方を前に発表するにあたり、自身の研究内容の構成と、説明の分かりやすさの両方を十分に意識するようになりました。

限られた発表時間の中で、研究の背景、目的、主要な結果を説明するためには、まず、聴衆に最も伝えたい中心的なメッセージが何であるかを明確にする必要がありました。



5月21日、沖縄コンベンションセンターで開催された日本小児歯科学会（JSPD）の国際シンポジウムに、ASUNARO　Award受賞者として参加し、発表を行いました。研究を行う際、私は研究方法の細かな点や結果の正確性に意識を集中しがちです。しかし、発表では、その研究がなぜ必要なのか、そして得られた知見にどのような意義があるのかについても説明する必要があります。今回の経験を通して、自分自身が研究内容を理解することと、それを他者に分かりやすく伝えることには、それぞれ異なる準備が必要であることを改めて認識しました。

他国の小児歯科の先生方とともに学術セッションに参加できたことも、有意義な経験でした。言語や臨床環境は異なっていても、子どもたちが安全な歯科医療を受け、口腔の健康を維持できるようにしたいという思いは共通していました。この経験を通して、日々の小児歯科臨床におけるどのような疑問に、自分の今後の研究が答えることができるのか、より深く考えるようになりました。

懇親会では、シンポジウムで知り合った先生方と、よりリラックスした雰囲気の中で会話を深めることができました。正式な発表では研究が中心でしたが、食事をともにすることで、日常生活やそれぞれの文化について話す時間を持つこ　とができました。こうした最初の交流のおかげで、その後の富山での活動でも、より打ち解けて過ごすことができました。また、国際学会への参加は、今後も意見を交換していくことのできる先生方との関係を築くきっかけになるのだと実感しました。

ASUNARO　Awardを通じて得られた今回の発表の機会は、今後も自身の学術的なスキルを高めていきたいという意欲につながりました。研究を進めるだけでなく、自分の研究についてよく知らない聴衆にも、その内容を分かりやすく説明する力を身につけていきたいと思います。研修の期間にこのような機会を得られたことを、大変ありがたく思います。



5月22日・23日　東京・富山での交流





5月22日、沖縄から東京へ移動し、田中先生のご厚意により、訪問メンバーで食事をご一緒しました。学会終了後も引き続き皆さんと時間をともにしたことで、学会での交流と、その後の医院見学へとつながっていく一連の流れを実感することができました。

慣れない環境の中でも快適に旅を続けられるよう、細やかにご手配いただいたことに感謝しています。





5月23日、新幹線で富山へ向かいました。富山市ガラス美術館をはじめ市内を観光し、学会会場とは大きく異なる環境の中で、皆さんと一緒に過ごす時間を持つことができました。同じ専門分野の先生方と一緒に旅をすることで、改まった自己紹介の場だけでは必ずしも知ることのできない、それぞれの興味や考え方に触れることができました。また、こうした経験を共有したことが、その後、臨床について気軽に話し合うための関係づくりにもつながったと感じました。

富山での初日のハイライトの一つは、佐野先生の奥様がご厚意で開いてくださった「Kentarou」での歓迎夕食会でした。料理は格別に美味しく、心から食事を楽しむことができました。富山での滞在を始める素晴らしいひとときとなり、医院見学を前に、佐野先生の奥様やあすなろ小児歯科医院の皆さんと一緒に時間を過ごす機会になりました。食事を囲みながら、それぞれの文化や日常生活についてさまざまな話をし、リラックスした雰囲気の中で会話を交わすことで、お互いのことをよりよく知ることができました。特に、佐野先生の奥様が私たちをとても温かく迎えてくださったことに感謝しています。海外から訪れた私にとって、このように親切に迎えていただいて居心地の良さを感じ、仲間の一員として迎えられた気持ちになりました。この素晴らしい夜を過ごさせてくださった佐野先生の奥様に、心より感謝申し上げます。素晴らしい料理とともに、その温かいおもてなしも、忘れられない思い出として心に残ることと思います。

お互いの文化や日常生活について語り合うことで、医院を訪問する前に、そこで働く方々の人となりを知る機会を得ることができました。施設やプログラムを見学することに加えて、そこで働く人々について知り、その人たちがつくり出す雰囲気に触れることも、今回の交流における重要な経験の一つでした。



レジデントとして、自分の病院での診療の進め方や研修体制に慣れてしまうことはよくあります。しかし、他国の小児歯科の先生方と交流する中で、普段慣れ親しんだ診療のあり方が、どのような背景で形づくられているのかを改めて考えるきっかけとなりました。同じ臨床上の課題であっても、診療環境や患者のニーズによって、その対応方法は異なる場合があります。そうした違いを理解することは、お互いに学び合う機会になると感じました。

今回の旅で特に良かったと感じたことの一つは、参加者の皆さんを、単に講演者やホストという立場を超えて知ることができたことです。一緒に旅をし、食事をともにする中で、皆さんを、今後もさまざまな疑問について話し合うことのできる仲間のように感じるようになりました。こうした自然で親しみのある人と人とのつながりが、共通する学術的な関心とともに、国際交流を継続していく支えになるのではないかと感じました。



5月24日　富山の伝統文化と工芸



5月24日、仲野先生とASUNAROの皆さんとともに、富山地域の文化や伝統工芸に触れました。相倉合掌造り集落では、その土地の暮らしを反映した建築や周囲の風景を見ることができました。学会と医院見学の間に、富山という地域について知る時間を持てたことで、ホストの方々が暮らし、働いている土地について、より深く理解することができました。

伝統的な和紙作りの体験では、実際に材料に触れ、紙ができるまでの工程を一つひとつ体験しました。完成したものをただ見るだけの場合とは異なり、自分自身で実際に作ることで、また違った印象を受けました。説明を聞いたときには理解できたと思っていたことも、自分でその工程を体験することで、より具体的に理解することができました。

この体験を通して、小児歯科において子どもたちにどのように教えるかについても、改めて考えるようになりました。歯みがき方法を説明したからといって、必ずしも必要な動きを身につけたり、習慣として定着するとは限りません。子どもたち自身が実際にやってみて、難しいと感じるところに気づき、もう一度やってみる機会を設けることが大切なのではないかと感じました。和紙作りの体験そのものは口腔保健とは関係ありませんが、実際に体験に参加することが、理解や記憶を深めるうえで役立つことを実感する機会となりました。



午後には井波と瑞泉寺を訪れ、能作では金属加工や鋳造に触れました。特に興味深かったのは、歯科で学んだ鋳造の工程との共通点です。材料の特性を理解し、形を考え、より良い完成品を作るために製作工程の細かな部分を調整していくことには、歯科の技工作業と共通する点がありました。こうした伝統工芸に触れたことで、これまで歯科で慣れ親しんできた材料や技術について、普段とは異なる視点から考えることができました。

こうした文化体験は、訪問したメンバーにとって、共通の経験を持つ機会にもなりました。一緒にさまざまな活動に参加し、食事をする中で、自然と会話が生まれました。お互いにより打ち解け、それぞれの文化についても理解を深めることができました。今後の交流プログラムでも、施設訪問とあわせてこのような機会を設けることで、参加者がよりリラックスして自分の考えを伝え合えるようになるのではないかと思います。







富山の伝統文化や工芸を一日かけて巡った後、佐野先生の奥様のご厚意により、「丹波」で夕食をご馳走になりました。日本料理は本当に美味しく、この食事も今回の旅の思い出深いひとときの一つとなりました。日中に富山の伝統的な建築や工芸を体験した後、夜には、ホストの皆さんや他の参加者の先生方と一緒に日本料理を楽しみ、一日を締めくくることができたことを嬉しく思いました。夕食では、ゆっくりと席につき、その日に訪れた場所を振り返り、日中の活動のように慌ただしく過ごすことなく、会話を続ける時間を持つことができました。特に、2日間続けて心のこもったおもてなしをしてくださった佐野先生の奥様には、大変感謝しています。そのご厚意によって、富山での滞在を親しみやすく、温かく迎えられているように感じることができました。また、故郷を離れている中で、このように親切に気遣っていただけたことをありがたく思いました。

「丹波」での夕食は、素晴らしい料理と、それをともにした皆さんの両方が心に残る思い出となりました。この夜を、一日の締めくくりにふさわしい楽しいひとときにしてくださった佐野先生の奥様に、心より感謝申し上げます。



5月25日　あすなろ小児歯科医院の見学

5月25日、今回のプログラムの中心となる、あすなろ小児歯科医院を訪問しました。子どもたちのために設けられた院内の空間やさまざまな活動は、「ASUNARO　KINGDOM」という名前にふさわしいものでした。私たちが訪問した際には、医院はパン屋をテーマとしており、子どもたちが普段経験する歯科医院とは異なる体験ができるよう、さまざまな工夫が取り入れられていました。





特に興味を持ったのは、子どもたちに発行される王国パスポートと通帳でした。子どもをこの王国の一員として迎え入れることで、歯科医院を訪れることに、その子ども自身にとっての意味が生まれるように感じました。待ち時間や診療を受けることが、子ども自身の記録とともに一つの物語の一部となることで、受診そのものが、より印象に残る体験として記憶されるのかもしれません。また、これらのアイテムは、一回の受診と次の受診とをつなぎ、医院との継続的な関係を支える一つの方法にもなっているように感じました。

ゲームやご褒美も、小児の行動変容という観点から興味深いものでした。子どもたちが課題に挑戦し、達成感を得られるような活動は、歯科受診に対する良い思い出を作るのに役立つ可能性があります。短時間の見学だけでは、これらのプログラムの実際の有効性を判断することはできません。しかし今回の見学を通して、治療中の短い褒め言葉やご褒美だけにとどまらず、よく知られている「正の強化」という考え方を、歯科受診全体の中にどのように取り入れることができるのかについて考えるきっかけとなりました。

歯みがきの歌や参加型の口腔衛生活動には、子どもたちが理解で

小児歯科では、保護者に説明すべきことが多く、子ども自身が教育の過程に直接関わる機会が少なくなってしまうこともあります。子どもたちが実際に参加し、自分自身の行動についてフィードバックを受けることで、口腔ケアを自分でもできることとして感じられるようになる可能性があります。子どもの年齢や理解度に応じて、子ども自身が積極的な役割を担えるようにすることについて、さらに考えていきたいと思いました。

ASUNAROの取り組みから、治療の前後に過ごす時間も、歯科受診全体の体験を構成する一部であることを改めて認識しました。子どもが初めてその空間に触れたときの印象、待ち時間に行う活動、そして治療後の記憶は、次回の受診に対する期待に影響を与える可能性があります。研修医として、私は治療手技の正確さや、治療中の子どもの協力度に意識を向けることが多くあります。今回の見学を通して、その治療を取り巻くさまざまな体験についても、これまで以上に注意を向けるようになりました。



すべての施設が、同じ規模の空間やプログラムを提供することは難しいかもしれません。それでも、子どもたちに受診について説明し、参加する機会を設けることは、それぞれ異なる臨床環境においても検討できると思います。今後の臨床では、子どもたちが何を怖いと感じているのか、そしてどのような場面で自信を得ることができるのか、その両方をより注意深く観察していきたいと思います。今回の見学を通して、子どもたちがどのように歯科診療に慣れていくのかを、より長期的な視点で考えるようになりました。





その日の後半には、日本酒も楽しみ、日本の食文化のもう一つの側面に触れる機会となりました。日本酒はとても美味しく、今回の訪問中にゆっくりと味わう時間を楽しむことができました。これもその日の活動に加わった思い出深い体験となり、あすなろ小児歯科医院の見学後に、皆さんとリラックスして過ごすひとときにもなりました。特に、仲野先生がご厚意で日本酒をプレゼントしてくださったことを、大変ありがたく思いました。試飲を楽しんだ後だったこともあり、富山での時間を思い出させてくれるものをいただき、とても嬉しく思いました。仲野先生の心のこもったお心遣いによって、この体験がさらに特別なものとなりました。そのご厚意に心より感謝申し上げます。



夜には、「La locanda del pittore」に集まり、夕食をとりました。料理は素晴らしく、食事を心から楽しむことができました。この日は富山で過ごす最後の夜だったため、今回の訪問をとても楽しいものにしてくださった皆さんと一緒に席を囲み、さらに時間をともにできたことを特に嬉しく思いました。あすなろ小児歯科医院の見学や日本酒の体験などがあった一日の最後に、美味しい夕食を皆さんとともに楽しむことができ、とても素敵な一日の締めくくりとなりました。数日間を一緒に過ごした後にお別れするのは寂しく感じましたが、滞在中に楽しんだ食事や会話、そして皆さんからいただいた親切を、良い思い出として持ち帰ることができました。また皆さんとお会いできる機会があることを願っています。

5月26日　帰国と今回の訪問を振り返って

5月26日に帰国する中で、この1週間の活動を振り返りました。沖縄での発表、東京や富山で先生方と過ごした時間、伝統工芸の体験、そしてASUNAROの訪問は、それぞれ異なる経験でした。その一つひとつが、小児歯科のレジデントとして、子どもたちにどのように接するか、そして先生方との関係をどのように築いていくかについて考えるきっかけとなりました。

自身の臨床と教育への示唆

まず、自分の臨床において見直したいと感じたのは、子どもたちへの説明の仕方です。保護者に理解してもらうことは重要ですが、子どもたち自身が自分の治療や口腔ケアに参加することも同様に重要です。次に何をするのかを年齢に応じた言葉で説明すること、子どもができる小さな課題を与えること、そして子どもができたことを具体的に認めることを、これまで以上に意識して行いたいと思います。

また、治療後に子どもたちの記憶に何が残るのかについても、より注意を向けたいと思います。歯科医療スタッフがうまくいったと考える受診であっても、子どもにとっては怖い経験として記憶されることがあります。受診が難しいものになった場合でも、子どもが頑張ったことを認め、次回は何をするのかを説明することで、その受診を子どもがどのように捉えるかに良い影響を与えられる可能性があります。治療結果を確認することに加えて、子どもがその受診をどのように経験したのかについても考える必要があると感じました。

海外の先生方から学ぶ中で、ある取り組みがなぜ生まれ、どのような環境で行われているのかを理解することが重要だと感じました。ASUNAROでは、院内の空間の見た目だけに注目するのではなく、プログラムがどのように子どもたちの参加を促し、子どもたちにとって受診に意味を持たせているのかを考えることの方が、より有意義でした。他の施設についても、このような問いを持って見ることで、自分自身の臨床を振り返ることにもつながると思います。

交流の継続と謝辞

日本や台湾の先生方と時間をともにしたことで、学術交流は発表会場の中だけで終わるものではなく、その後も続いていくものであることを実感しました。今後の学会で再び皆さんとお会いし、臨床での経験や研究のアイデアを引き続き共有していけることを願っています。若手の小児歯科医師が、リラックスした雰囲気の中で症例や日頃感じている課題について話し合える機会があれば、今回の訪問を通じて築かれた関係を、さらなる学びへと発展させていくことができるのではないかと思います。

ASUNARO　Awardと今回の交流の実現にご尽力くださった佐野先生ならびに日本小児歯科学会（JSPD）の皆様に、心より感謝申し上げます。また、訪問期間を通して温かく迎えてくださった佐野先生の奥様、仲野先生、田中先生、あすなろ小児歯科医院の皆様、そして私の参加を支えてくださった指導医の先生方ならびに韓国小児歯科学会の皆様にも、心より感謝申し上げます。今後も、子どもたちが安心して歯科診療を受け、自らも積極的に参加できるような歯科医療について学び続けながら、今回の経験を自身の臨床や研究に活かしていきたいと思います。